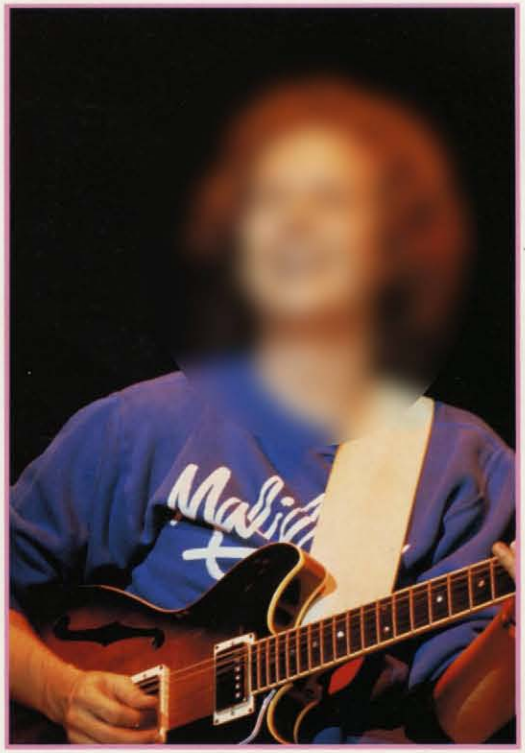
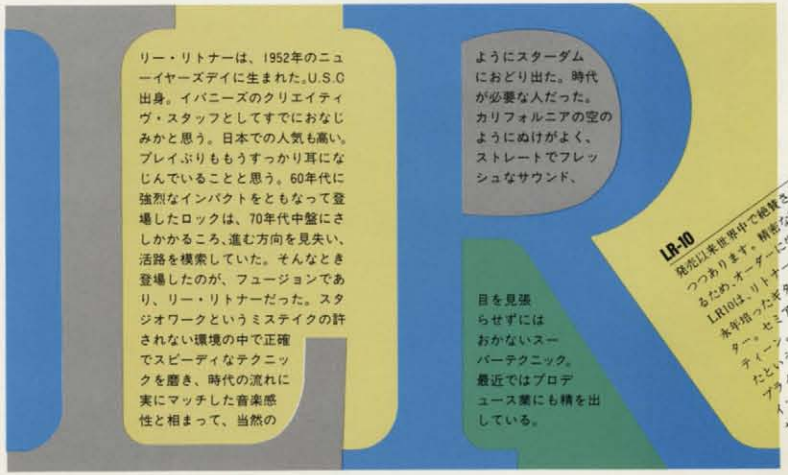
LR10が描くパフォーミング・アーツはワーナーコミュニケーションズから発売されます。



LEE RITENOUR



リー・リトナーは、1952年のニューイヤーズデイに生まれた。U.S.C出身。イパニーズのクリエイティヴ・スタッフとしてすでにおなじみかと思う。日本での人気も高い。プレイぶりももうすっかり耳になじんでいることと思う。60年代に強烈なインパクトをともなって登場したロックは、70年代中盤にさしかかるころ、進む方向を見失い、活路を模索していた。そんなとき登場したのが、フュージョンであり、リー・リトナーだった。スタジオワークというミステイクの許されない環境の中で正確でスピーディなテクニックを磨き、時代の流れに実にマッチした音楽感性と相まって、当然のようにスターダムにおどり出た。時代が必要な人だった。カリフォルニアの空のようにぬけがよく、ストレートでフレッシュなサウンド、

目を見張らせずにはおかないスーパーテクニック。最近ではプロデュース業にも精を出している。

LR-10

発売以来世界中で絶賛され、セミアコースティックの代名詞となりつつあります。精密な製作工程とチェック過程を数をくぐりぬけるため、オーダーに生産が間に合わず、ご迷惑をおかけしています。LR10は、リトナーの来タリストとしてのインテリジェンスと教々の永年培ったギターメイキングのノウハウがもたらし、きさに操作ギター。セミアコースティックのジャンルに衝撃を与えたロングサスティーン。リトナーは愛用していたコンプレッサーを捨ててしまったという。スプルース、メイプル、マホガニー、スプルースのメプライのセンターブロックに異材質コンビネーションネックをジョイントし、バターのように滑らかなプレイヤビリティを実現した。サウンドホールは特殊カッタンとラバーでカヴァされ、ボディ内の空気振動を殺すことなくサウンドパフォーマンスに反映します。ピックアップはSUPER58改良のLRスペシャル。サウンドカタログはワーナーコミュニケーションズから発売されています。